

帆檣成林

—はんしょうせいりん—

新潟市歴史博物館
博物館ニュース
vol.5

■「帆檣成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。
人が多く出入りする活気ある「みなと」を
イメージさせる言葉です。

■CONTENTS

◆特集1 アンケート分析からみえるみなとぴあの来館者像 P.2・3

◆特集2 第2回むかしのくらし展「あそび～こどもと時代～」P.4

- 常設展示室から 「北東アジア地図」 P.5
- おすすめの一冊 『にいがたポロポロ草』 P.5
- みなとぴあ研究notes 吉田初三郎画「新潟市鳥瞰図」の謎解き第一歩 P.6
- 館長日記 「青森の人の親切でかかった雪中の遺跡見学」 P.7
- 収蔵資料紹介 【船大工のノコギリ】 P.7
- みなとぴあの人・人 No.5 清掃 P.8



新潟市歴史博物館
博物館ニュース

帆檣成林

Vol.5

■帆檣成林「はんしょうせいりん」第5号 ■発行日 平成17年12月7日
■編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市柳島町2-10
■印刷／新潟プロセス印刷株式会社

新潟市歴史博物館の催し物

2005年12月～2006年3月

企画展	企画展関連イベント	体験プログラム
12月 ～11.19 第2回むかしのくらし展「あそび～こどもと時代～」	23日 もちつき大会	17・18日 わらでつくるクリスマスツリー
	7・8・9日 すごろくをつくってみよう	24・25日 おてだまをつくってみよう
	14・15日 むかしのおもちゃをつくってみよう 22日 むかしのあそびであそんでみよう 29日 むかしのあそびであそんでみようファイナル 1.29	
2月	2.25 新潟の絵図展	4日 節分行事を楽しむ 19日 いろんなものをなぞってみよう
	3.12 3.18 新収蔵品展 ～4.9	4日 炭火のこたつはどんなかな？ 11日 親子で楽しむ絵図展 18日 バックヤードツアー 25日 おもちづくり

※詳細につきましては、当館HP、または博物館までお問い合わせ下さい。

【かみしばいの時間】

【日 時】1月14日(土)・21日(土)・2月4日(土)・18日(土) 午後1時～2時
【会 場】博物館本館1階たいけんのひろば
【申し込み】当日受付となります。当日、お時間までに会場へお越し下さい。参加費は無料です。

次回企画展

「新潟の絵図」展

2006年2月25日(土)～3月12日(日)

【休館日】2月27日(月)・3月6日(月) 【観覧料】無料

◆申し込み・詳細につきましては当館HP、または博物館までお問い合わせ下さい。
お問い合わせ先 新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市柳島町2-10 TEL.025-225-6111 FAX.025-225-6130
URL: http://www.nchm.jp e-mail:museum@nchm.jp

募集中!!

すごろくをつくってみよう

オリジナルすごろくをつくって遊んでみます
【日 時】1月7日(土)・8日(日)・9日(月・祝) 午後2時～4時
【会 場】博物館本館1階たいけんのひろば
【定 員】各日20人
【申し込み】往復はがき・メール・ファックスで博物館までお申し込み下さい。
定員に達し次第、受付を終了します。

ボランティア新規募集のための みなとぴあボランティア見学会

この度、みなとぴあでは来年度から活動していただくボランティアスタッフを募集します。
興味をお持ちの方は、ボランティア活動の見学会を開催しますので、ぜひご参加下さい。
なお、ボランティア募集の詳細は見学会でお知らせします。
【日 時】1月15日(日) 午後2時～4時
【会 場】博物館本館2階セミナー室
【申し込み】はがき・メール・ファックスにて、事前に申し込みの上、当日会場までお越し下さい。
定員は特にありません。

みなとぴあの人・人

No.5 清掃 真保 弘明

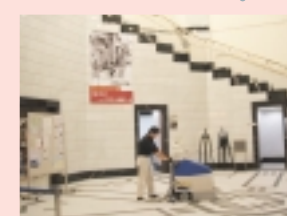
私たちは、清掃作業を担当しています。博物館本館、旧新潟税関庁舎、旧第四銀行住吉町支店と敷地内の歩道、堀、駐車場など来館される



お客様が快適にご利用いただけるよう心がけて作業しています。はそれぞれ特徴がありますので、清掃方法も異なり、材質や造りな

どの違いや当時の管理方法などを参考に作業をおこなっています。他に、落葉の回収や歩道の除雪など季節に応じた様々な作業をおこなっています。

これからお客様に満足していただけるよう、私たち一同がんばります。



編集後記

「帆檣成林」第5号、いかがでしたか。今号の表紙は、体験講座で製作された土器を、火の周りで乾燥させた後に火の中に入れて焼き上げる野焼きの様子です。
先日、淳足櫓の発見につながる可能性がある「ふせたるかめ」を探る調査を見学に行きました。「ふせたるかめ」は、天皇の宮に係る奈良の亀形石に類似したものであるとの考えのもと、電気や磁力を使った調査をしていました。微小な証拠を積み重ね、地質学や考古学を取り入れて探求していく姿に、歴史学の未来像を見たとに思いました。(土田)